

萬壽樂





俳句者、和歌之流也。猶詩之有絕句歟。自蕉老倡正始之音。海內風靡。予今百有餘歲。蓋吟詠情性者。莫近於是焉。信陽蕉雨好。斯道也。凡四方騷客。之各任。而其傳聞于



雅人深致



朱樹翁閱
綠竹叟刻

八葉蕉雨輯

亡者莫不錄焉，乃者選其最佳者，
輯成一卷，會方明探更科，勝途
次其家，便托達諸係竹皮，見
而敦曰：大哉，柔也。選之不易，古尚
難之，我亦以吾所好而贊，形舉茶
剿出古後類，俳句者，与黻齋半江
謀分而篆鐫之，印每句之首，譬猶

待之有小序也，得印而句意益
明矣。既而又致諸朱樹翁，閱焉。
數四而後還之，蕉兩勸刻，乃成。嗟
乎，斯集之與，切劇不啻，各與有力
哉。夫吟詠情性者，取以潤色其素，
雖則源子百歲之上，接蕉老而略
云正始之音，其可不和焉乎。

寬政丁巳如月雷首平長孺書于
鳩盈居之南函下



萬壽無疆



可都里
士朗

可都里
士朗

煙波釣叟



きこえのこゝろはあはれなるものなり
素壁

ともしよしとせしむる柳の
泉北

寂寞



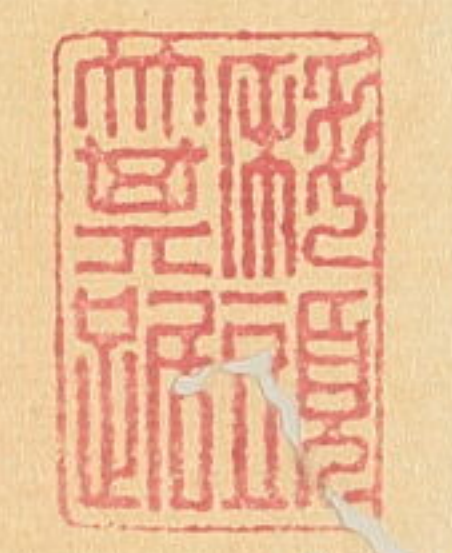
ともしよしとせしむる柳の
大阜

きこえのこゝろはあはれなるものなり
芸門

ともしよしとせしむる柳の
路人

きこえのこゝろはあはれなるものなり
龜年

科頭箕踞



もやもやと秋のやぐらに月夜
五明

上柳ノ一ノ七ノ水ノ何ノ家ノのノ家ノり
 宗讚
 古ノ也ノ一ノ心ノ何ノ水ノ何ノのノ楚ノのノ水
 少汝
 中ノ心ノ甚ノ好ノのノ心ノ風
 蘭二



白雲紅樹

人ノのノ何ノ何ノあノをノあノりノり
 玉層

三ノふノれノいノつノやノはノらノうノあノいノ花
 山阜
 三ノりノしノつノ花ノ也ノ井ノ花ノがノつ
 桂五



聖美人兮天一方

右六顆 餘延年鑄

三ノふノれノいノつノやノはノらノうノあノいノ花
 道彦
 三ノりノしノつノ花ノ也ノ井ノ花ノがノつ
 伏青
 夕ノ園ノあノいノをノ一ノとノ流ノるノ芒ノのノ邪

桃花源裏人家



たらの日かかりの影をよそよそ
乃くもやふらふらふの音
ほおしてまけしあまの橋うね
蝶くも二天のさうさうか
ちからんをうすむるも花

長翠
忍阿
昆明
春花
亞溪

青山不老



高懸木よりあつりりその月
松肥まよふ
おりまよふまよふ松小歌けり
早崎小松歌
晴一松松まよふまよふ三月月

菊溪
延至
騏六



王孫歸不歸

花よもさゆな〜あふ〜あま〜
 ちか〜あひのあひをを尾む枯〜
 あ〜きさき〜あ〜あ〜あ〜
 晴晴や海〜か〜あ〜あ〜
 高丁も〜あ〜あ〜
 年ぬらの幸あ〜

斗入 双鳥 紀風 高丁女

湖を一日してとらふは〜

羅城



極楽

夕ぐれや海もあ〜海の月
 あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜
 月夜の月あ〜あ〜あ〜
 好〜あ〜あ〜あ〜あ〜

青阿 樗堂 奇哉 馮月



紙窗竹塵

そのめいれいもさへも雨なり
 毛しくぬるやあやうき
 二月る小煙くはれぬ夏の柳
 うくふいのふかぬれず
 夕とや花のあつらひ休居
 白圖
 徐英
 尺艾
 雲帶
 鸞圖

冬一裘夏一葛



清くねれの像をみる
 岳格



閑門讀奇書
 閑門延高岩
 出門尋山水

成美

川のほとりわたりしはるる
重厚
紫乃戸もはるるとして小水湧
梅好

山中無曆日



右八顆

邨美成鐫

床の尾ふさふさをし
素外
うらむしの際しはるる小水
希言

一竿風月



河原菊もさながらに
柎庄
ゆりもさながらに
如毛
晴もてしの戸れ若も
李三
山もも胡麻の心
大奥



顔如玉

あささしはやんをれ人の志
手頃もさふさ白くれば水の無
七夕もゆきとてくく女房む

騏道
作良
艸人

尚玄人



暮もさふさ白くれば人の志
秋風やと寒のやうく枝
あささしはやんをれ人の志
く死もさふさ白くれば水の無
あささしはやんをれ人の志
あささしはやんをれ人の志
あささしはやんをれ人の志

椿堂
兆雲
一之
由梅
知足
弁六
素郷



濁酒枯魚

大年や念出てもむら
園やたふおのりあつた

白居易
卧尖



幽然深遠

行なむ心も枯れり
日く如

冥々

小園越せり
おとが
涼

班鳩
寿松
奇三
菊丸

落く長松



在明や月小は
入素

入素

重羽
 其成
 登水
 巨川
 五芳
 伯先
 竹有

一日清間一日儂



関叟
 方明



山居汲谷

つらふや	歸の	路の	す	し	子	素兄
ゆり	つら	ま	は	菴	は	糸
人	ま	ま	し	く	の	う
言	乃	も	や	女	ん	の
輝	の	さ	も	木	種	と
月	居					
葛	三					
帶	楳					
漢	甫					

か	一	紙	ん	を	た	ん
志	く	ま	の	そ	い	ふ
言	晴	し	た	け	し	る
み	の	び	ー	の	義	を
ち	り	ー	や	春	も	ゆ
あ	お	し	梅	ち	り	り
海	と	し	丁	吹	そ	る
汝	蘭					
可	紅					
免	柳					
倚	風					
壺	伯					
下	月					
蘭	更					



江村漁市

右九顆

平寅忠鑄

きよちのわくのちりきり
ふらのぼろぼろふらふら

墨山
物裁



窓前緑竹
門外青山

右

餘延年鑄

そのくさくさのちりきり
蕉雨

机の上のちりきり

机の上のちりきり

ちりきり

ちりきり

ちりきり

二首書の

のちりきり

印

寬政九丁巳春日

永樂堂梓



開 雕 每 部
圖 書 爲 記

